

科目番号	51002	分類		履修者	高度実践看護コース			学年		
科目名	人体構造機能論・演習 (Anatomy and Physiology)							1		
								配当セスター		
								通年		
担当者	○ 忠 雅之 他3名			区分	必修	単位	2	時間数	カリキュラム	45
									特定行為研修（実時間）	
									研修対応時間	
授業の概要および目標						学位授与の方針と関連				
【概 要】 診療看護師（NP）に必要な科学的根拠に基づく医学的な判断と問題解決能力、医療技術の発展に対応できる能力の基礎を身につけるために、周術期、生命危機期などのクリティカル領域における病態生理、疾病の理解の基盤となる人体の機能や構造に関する基礎的知識を確実なものとする。その上で、クリティカルな状況にある患者の生体侵襲について理解しながら、生命維持に直結する呼吸器系・循環器系・中枢神経系および代謝機能に係わる代表的な疾病の病態生理、臨床症状、診断を行うための医学専門的な思考を統合し特定の行為を行えるための能力を構築する。 【目 標】 1. 人体の構造について臨床に即した知識と合わせて理解する。 2. 検査画像を読み取る能力を身につける。 3. 人体解剖演習（見学）を通して人体の構造を肉眼的に観察する。 4. 病理解剖を通して人体の構造を肉眼的に観察する。 5. 骨学・器官系統別解剖を通して人体の構造を肉眼的に観察する。						○	1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力		
						○	2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力		
							3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力		
						○	4	専門職としての倫理的意思決定能力		
							5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力		
						○	6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力		
						○	7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力		
授業計画										
回	内容								担当教員	
第1回	Ⅰ. 臨床解剖学 1. 人体の構造と機能の理解 人体の構造と機能について系統別（下記）に自己学習を行い、発表を通して知識を確実なものとする 胸部そのⅠ、胸部そのⅡ 腹部そのⅠ、腹部そのⅡ 骨盤そのⅠ、骨盤そのⅡ 会陰 上肢 下肢 頭頸部 背部								忠 他3名	
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回	2. 病理解剖で分かること									
第15回	3. 解剖見学（慶應義塾大学）後期11月頃									
第16回										
第17回	Ⅱ. 臨床解剖見学									
第18回	1. 事前講義									
第19回	2. 解剖見学演習（山形大学）									
第20回	・バックバブルマスク（BVM）を用いた用手換気									
第21回	・皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖									
第22回	・主要な基礎疾患の管理									
第23回	・循環動態に関する局所解剖 ・循環動態に関する主要症候									
事前・事後学習	毎回の講義の前に下記参考図書の該当部分を熟読する。 また講義で取り上げた「臨床応用問題」について復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考にに取り組むこと。									
評価の方法	講義の出席状況、プレゼンテーションを観察評価する。フィードバックは適宜行う。									
参考図書・資料等	◎『臨床のための解剖学第3版』佐藤達夫監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。									
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。									